

1. 単元名 平和への意見文を語り部さんに伝えよう！
2. 教材名 「未来がよりよくあるために」【資料】「平和のとりでを築く」
3. 指導にあたって

本学級の児童は、「学級討論会をしよう」の単元で、クラス全体で討論大会を行った。討論する前には、自分の意見を持ち、討論大会に臨んだ。しかし、ほぼ固定された児童の発言で終わることが多かった。6月にとった研究アンケートの「自分の考えをすすんで伝えていきますか」という項目においても、約3割の児童が否定的な回答をしている。これらの事実から、折角、学んだり、考えたりしたからこそ得られた自分の考えを、中々表現できないでいることが分かる。また、意見を書いても、主観的な意見に偏り、根拠を確かにして説得力のある文章を書けていないことも本学級の課題の一つであると考えられる。

従って、本単元では、意見を進んで伝える力と説得力のある文章を書く力の2つの力をつけることを目標にする。2つの力をつける為に「平和への意見文を語り部さんに伝えよう！」と題して、未来が平和であるために自分たちが今何をすべきかを意見文にまとめ、その意見文を語り部さんに伝える活動を取り入れる。使用する教材「未来がよりよくあるために」は、構成の仕方や反論の書き方等の意見文の書き方を学べるだけでなく、考えを深める為に、毎時間自分の意見や根拠、反論等を考えるに当たって自分の意見を伝える活動の場も設定し易いので、考えを進んで伝える経験も積める。また、児童は、総合的な学習の時間で「平和」について学習してきており、既有的な情報を整理し、意見文の構成を考える際には、それらの知識を活用できる教材でもあるので、全員の児童が意見をもちやすいものとなっている。

指導にあたっては、まず、第一次で、「平和への意見文を語り部さんに伝えよう！」と単元のゴールを示し、見通しをもたせる。また、他人に意見を伝えるには、自分勝手な主観的な意見ではなく、相手を「なるほど」と思わせる説得力のある「意見文」でなければならないことを伝える。第二次では、意見文の書き方を学び、実際に意見文を書いていく。まずは、教材の「未来がよりよくあるために」を使い意見文の書き方の基本を学ぶ。そして、次時からは、一気に文章におこすことが難しい児童もいるので、前時で学んだ構成表の通り「自分の意見」「根拠」「反論」「まとめ」の4つを1時間に1つ書いていくというように、1つ1つ順番に考えさせる手立てをとる。「自分の意見」をつくる際は、「平和である」とはどういうことかについての自分の意見をイメージマップを使い考えさせた上で、未来に向けて自分は何が出来るのかを考えさせる。そして、自分の意見を裏付ける根拠になりそうな情報を修学旅行でとったメモやインターネット、図書室での本を基に調べさせる。「反論」を考える際は、「なぜ反論が大切なのか」と「反論の書き方」をおさえた上で、「予想される反論とそれに対する自分の意見」を考えさせる。本時では、前時で考えた意見文の中の「予想される反論とそれに対する自分の意見」が説得力のあるものになっているかを話し合いで確かめる場面を設定している。反論とは、そもそも他人からうまれるものである。従って、この時間に話し合いを入れ自分以外の相手に読んでもらうことで、「生きた意見」を聞くことができ、自分の意見に対してより密につながった反論を考えることができるであろうと考える。第三次には、第二次で書き溜めていった構成表を基に、意見文を書いていく。書いた意見文は、第二次で学習した「書き方の工夫」が使われているかという観点で友だちと意見を交流し、自分たちで評価をすることで学んできたことをより深めたい。そして、それと同時に、自分たちの今考える精一杯の意見文を語り部さんに送ることで、自分たちの思いが語り部さんに届くことを期待している。

4. 単元目標

- ・平和について様々な情報を集め、友だちとの話し合いを通して主体的に意見文を書こうとしている。
- ・お互いの意図をはっきりさせながら、質問やアドバイスを入れながら話し合うことができる。
- ・自分の意見に説得力をもたせるように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えて書くことができる。

5. 指導計画（全13時間）

	学習の流れ	指導上の留意点
第一次 2h	1) 「平和」から連想されるキーワードを考える。 2) 単元のねらいを知り、学習の見通しを持つ。 ・未来が平和であるために自分が何をすべきなのかの意見文を書き、表明することを伝え、そのために教材で学ぶことを知る。	・1学期に行った「平和」と今考える「平和」を比較することで、見方に変化があったかを確認させる。 ・見通しをもたせることで、学習する必要性を感じさせ、意欲をもたせる。
第二次 8h	3) 意見文の構成を考える。 ・教材「未来がよりよくあるために」を使い、意見文の書き方の工夫を考える。 4) 「未来が平和である」ために、自分が今できることの意見を書く。 ・構成表の「はじめ」にあたる自分の意見を整理し、1つに絞る。 5) 6) 自分の意見の根拠となる出来事や資料を探し、整理する。 7) 反論の書き方を知り、反論を書く。 8) 自分の書いた反論に説得力があるかどうかを検討する。 (本時) ・書いた反論は説得力があるかどうかを、話し合いを通して、検討していく。 9) 自分の意見と、まとめを書く。	・拡大表示した意見文を見せ、全員で考えていくことで、視覚的に理解させる。 ・書き方の工夫は、双括型、文末が常体であること、意見に対する根拠、反論が書かれていること、具体例が用いられていることが見つけられればよい。 ・意見を書く際は、「～～。そのために、～～。」という型を使うことで、書く抵抗を少なくする。 ・必要であれば、インターネットや図書室で資料を収集させる。 ・反論の中の反対意見の部分はレベル分けする。 ・クラスの友だちに意見をもらうことで、自分では気がつけなかった新しい視点に気づかせる。 ・自分の意見を before・after として見られるようにワークシートを2枚使用することで、友だちの意見で自分の意見が変わったことを感じさせる。
第三次 3h	10) 「書き方の工夫」を基に意見文を書く。 11) 意見文を交流する。 ・友だちと意見を交流する。	・書き方の工夫を基に友だちにアドバイスをもらったり、一人で推敲したりしながら完成させる。 ・書き方の工夫を基に「いいところ」と「直すべきところ」を意見文に書き込ませていくことで、後から自分がみても、どこが良くてどこを直すのかを明確に示す。

6. 本時の学習について

(1) 本時の目標

- ・自分の意見に説得力をもたせるための予想される反論と、それに対する自分の意見を書くことができる。
- ・話し合いを通して、自分の意見をより強固なものとしたり、深めたりすることができる。

(2) 本時の展開 (8 / 11 時)

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価 (方法)
<p>1. 本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>2. めあてを考える。</p>	<p>○今日の授業では、段落のどこを自分の言葉で書きますか。</p> <p>○本時のめあてはどうしますか。</p>	<p>・本時が単元の中のどこの位置づけかを確認した上で、本時での学習課題につなげる。</p> <p>・自分たちでめあてを考えることで、本時で何ができたらいいかを意識づける。</p>
<p>自分が考えた反論が有効かどうかを班で話し合おう。</p>		
<p>3. 反論の書き方を確認する。</p> <p>4. 反論が有効かどうかを話し合う。</p> <p>・班で交流する</p> <div data-bbox="162 1176 496 1527" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>交流の3つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見と反論がつながっているかどうか。 ・2つのレベルに分けて書けているか。 ・2つのパターンのどちらが、なぜ有効か。 </div> <div data-bbox="162 1702 496 1995" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>振り返りのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのアドバイス (具体的) によって変化 (強固) したところ。 ・友だちの反論で参考になったところ。 </div>	<p>○反論の書き方を確認しましょう。</p> <p>○今、自分が書いている反論が説得力のあるものと言えるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことが伝わってきていい。 ・予想される反論部分は自分の意見の裏返しになっているからいいね。 ・根拠の部分が正しいかどうかを考えられているね。 ・予想される反論部分に対しての自分の考えがもう少し具体的に書いていたらいいよ。 ・私は、戦争がなくならないという反論を考え、それに対する意見は、確かに0にはならないかもしれないけれど、せめて自分たちが戦争のひどさを伝えていけば0に近づくと考えた。 <p>○本時で学んだことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△△さんに教えてもらって反論の書き方が分かった。 ・反論を書くと自分の意見に説得力が出るのが分かった。 	<p>・反論は「意見に直接反論している」か「根拠に反論している」という2つの書き方に行っているかを確認して、次の活動へつなげる。</p> <p>・before/after が分かるように下書き用のワークシートに書かせ、一人学びと話し合いとの後での自分の意見の変化を視覚的に分かるようにする。</p> <p>・話し合いでは、3つのポイントをもとに意見を交流し合うように声かけをする。</p> <p>・友だちとの交流の結果、意見を無理に変えなくても、良いということ伝える。</p> <p>・班長が司会をするなど、班での役割分担や話し合いの決まりを確認する。</p> <p>☆反論と、それに対する自分の意見を再度書くことができたか。(発表・ワークシート)</p> <p>☆話し合いを通して、自分の意見を強固にしたり、深められたりできたか。(発表・ワークシート)</p>